

国体デモンストレーションスポーツ シーカヤックマラソン

全国から153人が参加

宮古市神林のリアスハーバー宮古で18日、国体デモンストレーション「シーカヤックマラソン」(日本体育協会、文科省など主催)が行われた。全国から153人が参加、宮古湾で開催する国体セーリング競技の成功に大きな弾みをつけた。

同マラソンは1人乗りのシングル艇(男女別)、2人乗りのタンデム艇で5キロ、10キロ、17キロの各部門で競われた。

最高齢は10キロに挑んだ北海道の齊藤碩さん(82)で最年少は盛岡の東峻惺くん(10)と栃木の今関光汰くん(同)の小5が5キロに挑んだ。今関くんは母親の涼子さんと5キロタンデムを完走した。

宮古勢では田老の自営業・前川久仁子さん(53)が女子5キロ(参加8人)で優勝した。

レースは浄土ヶ浜から

ハーバーまでの5キロ。藤の川から浄土ヶ浜折り返しの10キロ。藤の川から日出島―浄土ヶ浜経由の17キロの3コース。コース内には6ヶ所に緊急上陸のポイントが設けられたが、リタイアもなく選手全員が

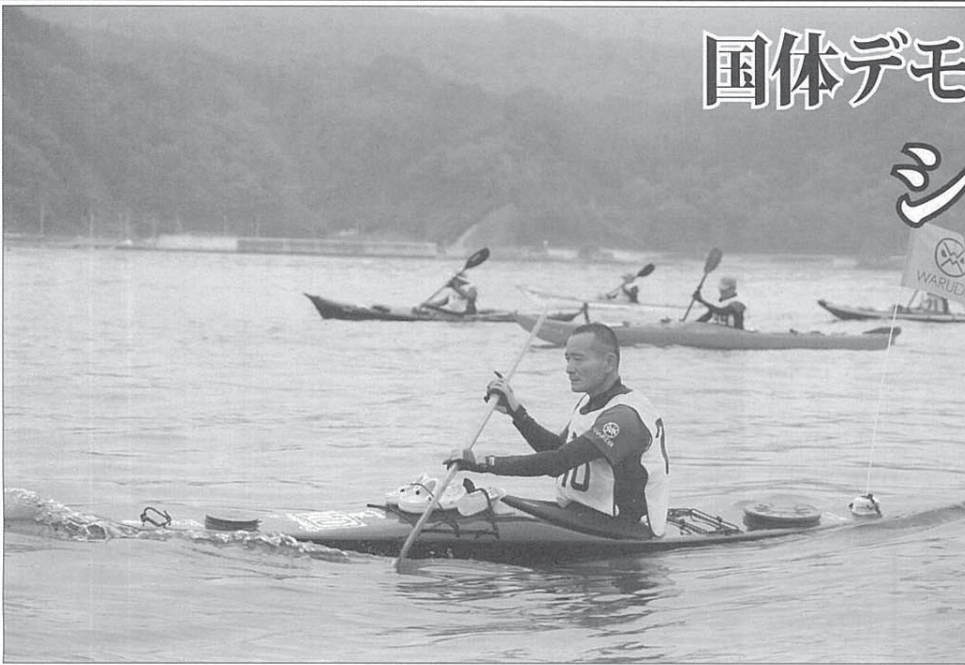
完走した。

大会終了後にはサンマやホタテの炭火焼き、サンマのつみれ汁が選手に振る舞われた。

宮古シーカヤック協会の滝澤肇会長は「沖合は

うねりが強かったが湾内は穏やかだった。これまでにない最多の選手が参加した」と喜んでいった。

国体正式種目のセーリング競技はリアスハーバーを「基地」に10月2日から5日までの4日間開催されるが、ハーバーでは大会事務局や選手控室などの建設が行われており、22日の祝日には高校生らがボランティアで花壇などの整備を行っていた。



藤の川から折り返しを目指し颯爽とスタートするシーカヤックマラソンの参加者。